

令和3年度第5回外部評価モデル小委員会議事概要

- I. 日 時：令和3年11月30日（火）17：00～19：00
- II. 場 所：Zoom 会議室
- III. 出席者：角田担当理事兼総括委員長、大原主査、片岡委員、佐渡友委員、竹内委員、酒井委員、中村委員、児島委員
事務局：井端事務局長、坂下職員

IV. 検討事項

1. ビデオ試問コンテンツの作成状況について(点検・評価ルーブリックを添付)

- ① 経済学系の諮問コンテンツ例について、児島委員から資料1の「労働生産性に関する問題」として、国際データの比較に伴う労働者数の持つ意味(外国はレイオフができるなど)を鵜呑みにせず、多面的に捉えて比較できるか批判的思考力の点検や、どのようなデータがあれば労働生産性の決定を説明できるか、という論理的な思考力・科学的な考察力を点検する。その上で、労働生産性を高める具体的な方策の提案について、易しいレベル(働く現場から)、中程度のレベル(政府の立場から)、難しいレベル(イノベーションから)のいずれかで答えさせることで、課題発見・課題設定・解決力を点検することを期待して作成したことが報告された。委員からは、資料を探す時間を短縮するためある程度、資料の場所を提示するなど、諮問の効果を損なわない程度で労働者の定義などを示しておく工夫について意見があった。
- ② 法学系の諮問コンテンツ例について、中村委員から資料2の「法の適用と正義」として、事案に対する法の適用とその限界について、正義や倫理との関係において、より適切な結論に至るための思考を答えさせることを出題の意図としている。条文の趣旨に照らして答えているか、論理的な思考力で点検する。その上で条文を鵜呑みにして、批判的な思考力で解釈を変えなければいけないことが理解できているかを点検することにしており、資料2.1の点検・評価ルーブリックにおいて、レベル3の到達度を期待して作成したことが報告された。
- ③ 栄養学系の諮問コンテンツ例について、酒井委員から資料3の「家庭からの食品ロスに関する対策」として、食べられるのに破棄されている食品ロスの課題を取り上げ、家庭からの食品ロス1日当たり60gの実行可能な提案をどのように削減するとよいか、削減対策の公表方法、食中毒の安全対策への留意点を答えさせることにしている。資料3.1のルーブリックにおいて、問題発見・課題設定・解決力を中心に食品ロスの重要性が理解できているか、複数の削減提案ができているか、などを点検する。また、ロジカルシンキングとして、なぜそれに取り組まなければいけないか、正確に把握できているかを点検するとともに、考え方の論旨が分かりやすくなっている論旨明快に表現する力を点検するとの報告が行われた。
- ④ 工学系の諮問コンテンツ例について、角田委員からビデオコンテンツの映像で「電気自動車とハイブリッド車のCO2排出量の比較から電気自動車の導入・普及を進めるために優先的に取り組むべき事項」の提案を答えさせることにしている。資料4.1のルーブリックにおいて、CO2排出量のデータを用いてEV車の電力問題を客観的に評価し、本質を捉える考察ができているか、批判的な思考力を点検する。また、客観的な複数のデータを比較し、データの一部をモデル化して仮説を立て、その妥当性を検証できているか、科学的な考察力を点検することの報告が行われた。意見としては、科学的な考察力の(2)「比較したデータからの推論に基づいてシミュレーションを行う」は、実際にできない「比較したデータに対して推論を行い、」に表現を変えることにした。
- ⑤ 医療系の諮問コンテンツ例について、片岡委員から資料⑤の患者の背景を示し、カルテから歯科医師の立場で解決策を答えさせることにしている。点検・評価の視点としては、問題発見・課題設定・解決力とする。一つは、「美代夫人が困っていること」という観点で医学的・歯学的・社会福祉的な視点など複数の視点から全体像を見られること。二つは、問題の全容を問題点同士の関連をプロブレムマップとして示し、説明ができること。三つは、問題点の重要度、緊急度を考慮して、問題点の優先順位の設定ができること。四つは、問題点を把握する際の根拠データ、信頼度および問題点の解決策を考える際の根拠データと信頼度を示していること。五つは、歯科医師として設定した課題について、多職種との連携を含めて実現性を考慮した治療ケアプランを複数提案することができていることを点検することにしており、この報告が行われた。

2. 外部点検・評価コンソーシアムの役割と運営、点検・評価者の構成と公募方法、点検・評価・助言クラウドの構築と運営の考え方について

構想案を提案する背景や意義について理解の共有を促進するため、「1. モデル構想案の背景」、「2. 外

部者による点検・評価・助言の意義」、「3. クラウドを活用した点検・評価・助言の仕組み」について、一部適切な表現に改めた。

一つは、「1. モデル構想案の背景」②「これまでの大学教育は、一部を除き、知識の伝達・獲得・活用に比重がおかれ、本質を捉える学修を後退させてきているくらいが考えられます。」としていたが、断定できないことから、「知識の伝達・獲得に比重がおかれた教育では、正解のない問題に対して本質を捉え洞察する思考力を訓練するには不十分です。それには、客観的な情報・データを根拠に論理的・批判的に思考し、課題発見・課題設定を通じて考察し、発想や価値創造する「思考力する力」を訓練する問題発見・課題解決型 PBL(プロブレム・ベースドラーニング、プロジェクト・ベースドラーニング)の普及・充実が急がれます。」に改めた。

二つは、「3. クラウドを活用した点検・評価・助言の仕組み」の②「外部者による点検・評価・助言コンソーシアム」の役割を見直し、コンソーシアムの運営を組織するために、「点検・評価・助言検討会議(仮称)」を構成する要件、思考力等の点検・評価・助言基準のルーブリック作成を追加した。

三つは、③「モデルのパイロット事業構想の策定」に向けた検討課題として、学修成果の質保証システムとしての有効性を検証するため、プラットフォームの構築・運営に伴う資金確保と体制、点検・評価・助言に伴う人的組織の整備・運営方法などの実現可能性及び有効性について、本協会でもパイロット的に実験を行い、検証する必要があることを明らかにした。

3. その他(対話集会に向けた準備)

対話集会に向けて、ビデオ諮問コンテンツの最終的な調整を行うことにした。